



エルサレムの大使館

なっているので日本の布おむつがほしいと言

つてきたため、写真のように大量の布おむつを持って行ったのだ。その時、娘が言ったのは、イスラエルの首都エルサレムに各国の大使館がないのは、もし大使館を置けば、イスラエルが国連決議を無視してパレスチナの土地を不当に占領しているのを認めることになる。エルサレムに大

使館を置かないのはパレスチナ問題の本質を表すものだという事だった。
(イスラエル建国)
第二次世界大戦ではナチス・ドイツによって約六百万人のユダヤ人が殺された。このナチスの大量殺りくの犠牲者たちを見殺しにした欧米のキリスト教徒は、強い罪の意識を持つたと言われる。



大量のおむつ持参でパレスチナへ

日本人にあまりなじみがないながら、スペインのサンティアゴ巡礼を縦系に、横系にはサビエルに関することや宗教に関するいろいろな出来事をからませながら気ままに巡礼記を書いていくが、サンティアゴ巡礼に戻る前に、パレスチナについて触れておきたい。

先日、新聞で「首都エルサレム・大使館ゼロ」という記事を目にしたからで、これは今のパレスチナ問題を理解するのに必要な出来事だからである。私が最初にエルサレムを訪れたのは昭和四十九年、三十四歳の時で、この時は完全な観光旅行の聖地巡礼であった。その際、イスラエルの空の玄関口、テルアビブには大使館がたくさんあるなど思ったが、別に気にも留めなかった。

エルサレムの嘆きの壁の前で双方の共生を祈る(必ず帽子をかぶらなくてはならない)



それらを背景に一九四七年、国連でパレスチナの地にイスラエル建国決議がなされた。しかし、そこには何百年にわたってパレスチナの人たちが住んでいる。当然、アラブ諸国は決議に反対したが、賛成多数で押し切られた。

そのパレスチナとイスラエルの分割案ではエルサレムはどちらにも属さない国際管理地区になっていたが、その後起きた中東戦争でイスラエルはエルサレムを占領し、そこを首都とした。一方、パ

レスチナ側もエルサレムを首都とした独立国家成立を目指している。エルサレム問題は大きな意味がある。そして先日、エルサレムに大使館を置いていた中米のコスタリカとエルサルバドルも大使館を移動したため、エルサレムには各国の大使館はゼロになったというのである。